

# 曹洞俳壇

選・村松五灰子

## 合格の顔飛んで来てハイタッチ

滋賀県 三田 和子

評 十七文字に無駄がなく、健康な若者の全身からあふれる喜びが一瞬に映像となる。「ハイタッチ」が鮮やかな効果を上げ、読者まで気持ち明るくさせる一句である。

## 遠き日の家族総出の花見かな

福岡県 安部 正和

評 どここの家族も盛りがあり、やがてそれぞれの世界に旅立つて行く。それが順調であって良いことながら、やや淋しさも伴う。「家族総出」に懐かしい賑やかだった頃に、ふと思いを馳せる。句の容かたちも良くリズムも滑らか。

◆ランドセル鳴らして今日も子猫見に 岐阜県 大下 雅子

◆一姫は望み通りや桜餅 秋田県 小田篤恭葉

◆み佛に仕へ牡丹も育てられ 高知県 竹内とし子

◆病む膝をくづし写経や春障子 神奈川県 大竹のり子

◆録音も写真も禁止ご開帳 埼玉県 小林 茂之

◆うららかやずしりと干さる柔道着 鳥根県 藤江 堯

◆検診のことなき夕べ花の雨 静岡県 村松 保子

◆涅槃ねはん西風揺らぐ煙りに姫の顔 茨城県 坂内とくゑ

◆囀なまこや散歩続けて十年目 新潟県 大橋 恒次

◆雪匂ふ病室のドア開くたび 神奈川県 小橋 幸

◆前山に浮雲ひとつ春田打つ 千葉県 鈴木 英子

### \*選者吟

## 風鈴の音をはばかりる街暮らし

五灰子

### \*作句小見

私は俳句は救いの文学であると思っています。日々の暮らしの中で一句一句と詠んで行く。小さな吐息のようなもの。その小さな吐息が一年十年となれば大変な数です。重ねてゆく発散が大きな救いとなってゆくと考えています。

# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

杖がわりのの鋏を右手に畑まで袋の種を鈴の  
かわりに  
山梨県 北村 富子

評 作者は九十歳になられる。鋏を杖に畑に通われる暮らしの一齣ひとしゅがさりげなく詠われる。しかしこれは誰にでも叶うことではなく実に凄いいことなのだ。野菜の種が袋の中で鳴る音に鈴を感じている感性もいい。種は命の再生でもある。

段ボール三箱本を詰め込みみて吾の迷ひかきの嵩かさ  
の大きき  
熊本県 島田 佳可

評 三箱分には処分する本が入っている。出来たらずつと傍に置きたい本だがそもいかない愛書家の逡巡が、下の句の「迷いの嵩の大きき」に如実に表現されている。

◆あるき出す言葉待ちいる春の空遠く近くに光の文字が  
東京都 鈴木 正作  
◆湾口の波力発電実験機無尽蔵なる期待を祈る  
岩手県 関合 新一

◆渡し舟花筏よけすべり出しゆるり舳へら先に風を受けつつ  
埼玉県 橋本 永子

◆陽の中に秋吉台を焼くけむり物みな闇に沈みてゆきぬ  
山口県 中井 清子

◆昨年こぞ今年二人の兄を逝かして哀しみの果ての赤き半月  
奈良県 横井 正子

◆瓶にさす椿の蕾膨らみて先端白き輝きを見す  
山口県 濱田 道子

◆残雪に小さきだるま作りおき洞爺湖畔の宿後にせり  
京都府 荻野千枝子

◆ひとり居われ庭の残花と語る日はちちはおとうと微笑  
秋田県 小松 紀子

◆本物の喜怒哀楽を顔にだす孫の瞳はつよく輝き  
埼玉県 荒井巴喜雄

◆知らぬ間に高齢化した町内は雨のしずくの音も年取り  
東京都 野村 信廣

## \*選者詠

この春に逝きし人かの錯覚や身幅ゆかも衿ゆきも合  
う衣まとう  
ちづ

## \*作歌小見

鈴木さんが春の空に捜しているのは詩の言葉だろうと思います。浮かんでは消えるがなかなか定着してくれないもどかしさ。拙詠は形見分けの歌。亡くなって既に十年以上経つというのの身にまとうと亡き人が蘇る気がしました。



# 大本山永平寺



大布薩講式

## 仏にならう

七月の十七日は、如浄禅師さまのご命日です。

如浄禅師さまは、永平寺をお開きになられた道元禅師さまの師匠さまです。

ある日、如浄禅師さまは、道元禅師さまに、「坐禅をする時は、心を手の平の上におきます、これは代々仏祖に伝わる教えです」とお伝えになりました。

いつも自分の姿が、今を生きる仏となっていることに心をめぐらして、一息一息、竹の節の如くに行ずるのです。

さて、永平寺では月に二度、「法堂」に集まり、仏祖の生きる灯である十六条の戒を読み上げ、自らの生きる灯と違わないかと確かめる、「布薩」を修行します。

自らが、仏戒に違わないか確かめ、お釈迦さまをはじめ、如浄禅師さまや道元禅師さまにならうならば、仏祖の見たものを見て、仏祖の聞いたものを聞くことになるというのです。

向き合うものに対して、今は、親と子・師匠と弟子など、それぞれめぐり合わせにおいて、差別することなく、ひとつづきの「仏の命」であることを観じ、本来の「自己」を修行していきたいものです。

七月は、特に布薩の月です。仏祖を偲び、仏の一息一息を修行していきたく願うものであります。

ご本山だより



## 大本山總持寺



祈りの鐘

### み霊まつり

お盆の時節となる七月、總持寺では毎年一日から十一日まで毎日施食会法要を修します。九日の日曜日には江川辰三禪師さまが大導師をお勤めになられ、大勢の檀信徒が参詣されます。

また、時を同じくして四月から始まった夏安居制中がめでたく解制となります。特に、今春上山した新しい修行僧たちにとつては、禁足期間が解ける嬉しい時期となります。

十七日から十九日の三日間は、境内大駐車場に櫓を組んで「み霊祭り盆踊り大会」と「万灯会」が開催されます。特に盆踊り大会は、電飾や花火などで会場が華やかに演出され、大変なにぎわいとなります。今年で第七十回目を数えるこの催しは、横浜大空襲と鶴見鉄道事故の犠牲者を慰霊するために始められました。また東日本大震災など近年の災害で亡くなられた方々の慰霊も行います。

仏殿前や平成救世観音周辺には沢山の灯明が供えられ、今春設置された「祈りの鐘」が人々によって打ち鳴らされます。

このように、み霊祭り盆踊り大会や万灯会を通じて人々が總持寺を訪れ身近に感じていただけることは、とても大きな意味があり、地元の方々との交流を図る良い機会となっております。